

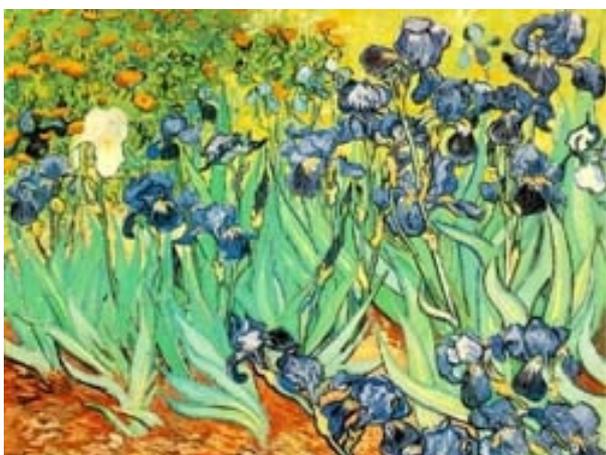
アイリス・・・



夏の雲小脇の道路沿いや管理事務所和室前等にアヤメ状の花、ジャーマン・アイリスが咲き出しました。ドイツアヤメとも呼ばれていますが、原種は中央および南ヨーロッパに自生していると言われています。イギリスの育種家から、フランス・ドイツの育種家へと幾多の交雑育種が行われました。戦後、特にアメリカの育種家が大成させて、世界に広めたとのこと。

日本のアヤメ属の代表が花菖蒲とすれば、欧米の代表はジャーマン・アイリスと言えます。丈夫な宿根草で、庭や鉢植えで簡単に育てることができます。花菖蒲やあやめと異なり、乾燥した土地を好むので水やりの心配はなく手軽に栽培できるので、最近、あちこちで目にすることが増えました。アイリスは、ギリシャ神話の虹の女神イリスに由来し、ゼウスとヘラの使者として天と地にかけて虹から下ってこの花に姿を変えたと伝えられています。葉はアヤメなどに比べると厚手で幅広です。花は大きくフリルのついた花びらが見事です。様々な色があり、その美しさは「虹の花」言われるほど豪華であでやかです。花言葉は、「あなたを大切にします」です

ところで、アイリスといえば、統計学にとって縁の深い花です。統計学の父といわれるフィッシャーがアイリス3種を4特性（がく片の幅・がく片の長さ・弁の幅・弁の長さ）をもとに統計的に分類したからです。今でも、判別分析の説明や相関係数を求める例題でフィッシャーのデータがよく引用されます。



また、ゴッホの絵（写真左）も思い出されます。アルルでのゴーギャンとの共同生活に破れたゴッホは、自分の耳を切ってサン・レミの病院に入院します。1週間後、5月の病院の庭に咲くアイリスを描きました。辛苦な内面とは対照的に、描かれた絵は5月の陽光のように明る

く印象的です。その絵は、1987年、ニューヨークの競売会で72億円という史上最高値で落札されたそうです。ゴッホは、日本に憧れ、浮世絵の模写までしています。アイリスの絵には北斎のあやめ版画（写真右）が影響していると言われています。